



日本共産党

西宮市議会議員

2021年07月

得意のフットワークで要求実現

No.187

まつお 正秀のかわら版

自宅 能登町 12 - 58 - 412 能登レックスマンション Tel・Fax73 - 0775

携帯 090 - 6960 - 4570 議員団控え室 Tel35 - 3368 Fax22 - 7815

西宮議員団ホームページ (まつおの活動紹介あり) <http://nishinomiya.jcp-giin.net/>

ブログはアメーバブログで「まつお正秀の雑記帳」です

コロナ対策全般で私が一般質問

感染状況、検査、ワクチン、事業者・市民支援

一年半に及ぶ新型コロナウイルスの影響。政府の無為無策ぶりや対応のチグハグさ、また、自粛を求めるのであれば補償とセットが求められ、根本的には国の問題が大きい。しかし、その中で地方自治体として何ができるか。6月議会ではコロナ対策1点に絞り、4つの角度で一般質問。

一つ目は

第4波の感染状況

この4月からの感染拡大は第4波といわれ、最も過酷な対応を迫られた保健所や医療機関。保健所職員が「患者が求める医療を提供できない事態は、災害と呼ぶしかない」と新聞取材に答えている事を紹介



壇上で質問する私

介し、その中身を質しました。答弁では、高知県や武庫川女子大学からの応援を受け、約100人態勢でギリギリの対応だったことが明らかになり、私は第5波に向けた備えを求めました。

二つ目は

検査の拡充

世界第三位の経済力を持ちながら、PCR検査数は世界140位の日本。高齢者施設や

三つ目は

ワクチン接種

障がい者施設職員の検査を公費で行えるようになりましたが、なかなか進まない背景には、職員配置に余裕がないことを指摘。

四つ目は事業者支援

と市民生活支援

前号でお知らせした市独自の事業者支援としての一時支援金。再度の実施を求め、市民生活支援では、特に生理事用品無償配布の定期化を求めました。

困った時は日本共産党 上記まつお迄 活動報告は上記の議員団ホームページから
まつおの議会質問詳細 (答弁含む) 等は西宮市役所ホームページの「市議会会議録」検索で

地方自治体は国の下請け機関なのか？

ワクチン接種でまたまた混乱が。国は地方自治体には2000万回分のワクチンが余っているはずだ、だからこれからは供給を減らす、と。自治体は国がどんどん供給するから集団接種や職域接種までやれと言うから、会場も確保し、神戸市では中学校での接種まで検討していたのにそのことに文科大臣が難色を示し、「いったいどっちなんだ」とはしごを外された自治体には怒りが。国は、現場で接種予約した人に断りの電話を入れる辛さがわかっていのか。西村大臣の酒の提供基準を守らない業者に銀行から圧力を、という発言にも表れています。国にはお上意識がまだあるのでしょうか？「自治体は国の下請け機関ではない」この声を広げていかなければいけません。



健康あれこれ111回 フットエイジング①

人は加齢とともに変化していきませんが、足も例外でなく年々機能が低下していきませんが、これを「フットエイジング(加齢と生活習慣に伴う足の構造変化)」と呼んでいます。元々遺伝による他人との足の構造や外観の違いは、私自身が超扁平足などところにも表われていますが、年齢とともに足が変化していくことも意識し、対策をとっていくことが求められています。具体的には、扁平足、外反母趾、巻き爪、靴の相性などですが、それ以外にも特殊なモートン病(足の中指と薬指の間の痛み)、足の裏が痛くなる足底筋膜炎などもあります。すべて取り上げることはできませんが、次回からいくつか取り上げていきます。

食べ物豆知識 173回 機能性表示食品

特定保健用食品(トクホ)は、メーカーなどの事業者が消費者庁に申請し、消費者庁が人での試験を実施して審査した結果、表示を許可されたものです。一方で、「体脂肪を減らす」「糖質ゼロ」などをうたった機能性表示食品は、消費者庁に届けを出しますが、消費者庁は特に審査は行わず、事業者の責任で機能性を表示しますから根拠となる論文などを企業は添付すればよいだけなので、人への試験などは行われません。ですから、機能性表示食品の効果をうのみにしない方がいいようです。

まつお正秀のコラム

このニュースが届く頃には、自民党県議団の分裂選挙となった兵庫県知事選挙の結果が判明しているかも知れません。井戸知事の不出馬により後継と目された副知事。しかし自民党県議団の中からそれでは知名度がないから勝てない、若さが必要というのもあったのかもしれない。大阪府から呼んできたのが財政課長。誰に勝てないかと言えば維新の会が候補者を出すからが理由。コロナ対策ではほとんど毎日のようにテレビに出ていた吉村大阪府知事の影響は無視できずということか。ところが分裂した自民党県議団が呼んできた候補者に維新の会が先手を打って推薦。そしてこの候補者を自民党本部も推薦することに。今回出馬の副知事も、大阪から呼び寄せた候補者も井戸県政の継承を謳っています。今回、県民のことよりも主導権争いに終始する自民党県議団の姿は、自民党も維新の会も政治の中身は同じであるという事をもさらけ出す結果となりました。